

あすアース 未来の地球のために

杉並区立西田小学校長 小堂 十

SDGs は、2016 年から 2030 年までの世界を変えるための 17 の目標として、国連で示されました。これらは、今後人類全体が真剣に取り組んでいかねばならない重要な課題であり、この達成なくして次世代に地球を引き継ぐことはできません。今から 12 年後の未来とは、現在の子供たちが社会に出て活躍しています。この意味からも、今、学校教育の中で ESD や SDGs について学んでいくことは、重要な意味があると考え、本校では取り組んでいます。

東京都では ESD の「持続可能な開発のための教育」の必要性を受けて、『持続可能な社会づくりのための教育』として研究推進校を都内から 30 校指定しました。ESD の内容は、持続可能というキーワードを基に「環境」、「エネルギー」、「平和」、「貧困」など多岐に渡り、これからの人類が持続可能な社会を築いていくために乗り越えていかなければならない課題です。決して従来の教科書の中身だけで、やりこなせる内容ではなく、未知の学びを含んだたくさんの輝きで満ちています。

まさに、生活科や総合的な学習の時間を中心にしながら、教科等横断的なカリキュラム構成によって、目的に近付くことが可能になります。そのために、本校ではカリキュラム・マネジメントの視点から、学年ごとに ESD カレンダーを作成し、年間の学習テーマに基づいた学びの単元デザインを考えました。

このカリキュラムを構成していくためには、私たち教員の力だけでは限界があります。ESD カレンダーを、より実のある内容にして活動に膨らみをもたせていくためにも、これまで以上に多くの外部人材や地域資源等を活かした学びのための活動を工夫しました。そして、これらの学びが、子供たちにとって価値観を広げ、問題解決能力を高めていくことができるのかを継続的に見ていくことを通じて、本研究の意味を問い合わせていく連続作業が必要だと考えています。

新学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」が提示されています。これは、学習の主体である子供たちの姿を描いたものですが、学習指導する教員の姿でもあると考えます。子供を変えていくためには、私たち教員が「主体的・対話的で深い学び」のアクティブラーナーでなくてはなりません。そのために、授業改善の視点とともに、研究協議会の変革に挑戦しました。具体的には、プログラム・デザイン曼荼羅図を活用しての目的を明確にして時間を有効に活用した協議会、より自由な発言の機会や意見交流を活発にするワールドカフェ方式の話し合い、多様な視点からの見方や考え方を広げ深めていくための地域や研究関係者等の外部参加等の工夫をしました。

その結果、子供たちの学びの姿と教師自身の指導観が、少しずつ広がり深まってきました。本日の研究会では、そんな成長の姿をみなさんにお伝えできればと考えております。

最後になりましたが、研究を進めるに当たってこれまで御指導いただきました学習院大学文学部教授諏訪哲郎先生、自由学園最高学部特任教授 成田喜一郎先生をはじめ本校の研究に関わっていただいた関係者の方々に、厚くお礼申しあげます。また、このような研究の機会を与えてくださり、常に温かくご支援くださいました ACCU、東京都教育委員会、杉並区教育委員会の皆様に深く感謝いたします。